

米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・ ソーシャル・スキル学習セッションの記録 (2)

——アサーションに焦点を当てて

高濱 愛
田中共子

I. はじめに

2011年6月に開催されたグローバル人材育成推進会議の中間まとめによれば、今後日本から1年以上の海外留学者を、8万人に増やすことが計画されている（グローバル人材育成推進会議，2011）。これは日本における同一年齢の者のうち、約10%に相当する人数を指している。日本から海外への派遣人数が増えれば、留学する層が拡大し、留学に対する学生のニーズも今以上に多様化することが予想される。それに応えるためには、派遣元である日本の大学も、提供しうるサポートの選択肢を適宜拡大していく必要に迫られるだろう。

大学が海外留学をする学生に留学のサポートを提供できるのは、渡航前と帰国後の2つの時期が主となろう。我々はそのうち、渡航後の留學生活における異文化適応支援を目的とした、留學前の異文化間教育に着目した。留學前には、日本の多くの大学において、語学試験対策の勉強会、説明会、英語による授業の受講といった留學準備の機会が存在する。経験的に行われてきたこれら以外にも、留學準備の場を拡大しようと我々は考え、留學準備教育としての異文化間教育を試みた。学生にとっては、豊かな選択肢の中から自在に準備方法を選んで、留學への備えを積めることが望ましい。

しかも所属大学内でその場が提供されるなら、アクセスもしやすくコストも低いため、学生にとっての魅力は大きく、大学の教育資源を広く享受してもらうことができる。

具体的には、我々は現地での対人関係構築を促すためのソーシャル・スキル学習の機会を、留学前の準備教育として留学予定の学生たちに提供してきた。ソーシャル・スキルとは「対人関係の形成・維持・発展に必要な技能（田中，1994，p3）」のことである。これまでにアメリカ留学経験者を対象として筆者らが行った調査によれば、このソーシャル・スキルの使用が対人関係網であるソーシャル・ネットワークを介して、留学中の困難や問題対応に必要なソーシャル・サポートの獲得につながり、留学中の適応を促進する可能性が示唆されている（Takahama, Nishimura and Tanaka, 2008）。このことから、我々はソーシャル・スキルの持つ異文化適応促進効果を積極的に求めようと考え、留学前の準備教育としてソーシャル・スキルを学ぶセッションを、留学予定者に提供する試みを展開してきた。その中では、日本からの留学者が最も多いアメリカのソーシャル・スキルを扱い、これまでに異なる3集団のアメリカ留学予定者を対象として、第1期から第3期と称して個別に開講してきた実践例がある（高濱・田中，2011a）。本稿では、こうした一連の教育実践の中から、短期交換留学予定者を対象とした第2期セッションの対話記録を報告する。第2期セッションの概要については、すでに別稿で報告しているが、加えて本稿で当日の対話記録の詳細を公開することによって、セッションの細部を明らかにし、後続研究者に資することを目的としたい。また今回の対話記録から、先に報告した参加者の意欲や態度といった肯定的な要素が、具体的な対話の中でどのように表現されていったのかも読み解いていく。

II. 方法

セッションの細かい手続きは高濱・田中（2010）、セッション初日の詳

しい対話記録は高濱・田中（2011b）に報告がある。本稿はセッション2日目に扱った、アサーションをテーマとする部分の対話記録を述べる続報であるため、それに関連するセッションの設定、参加者、学習内容の要点のみ、以下に示す。

1. 設定

X大学において、2008年某月の連続する2日間にアメリカン・ソーシャル・スキル学習セッションを実施した。セッションでは、まずソーシャル・スキルについて解説してから、留学中に直面すると思われる課題場면을提示し、まずは特に助言を与えることなく、自由に1回目の演技に臨んでもらった。その後演技を録画したビデオを再生しながら、肯定的なフィードバックやアドバイスを受け、続いて2回目の演技に進んでもらった。その後、1回目と同じく、録画した演技をみながらフィードバックを受け、最後にまとめを行った。講師は留学経験のある本稿筆者2名が担当した。ネイティブの立場からのアドバイスを求めるため、X大学に留学中であり、国際交流に意欲の高いアメリカ人男子交換留学生1名にボランティアとして参加してもらった。アシスタントとしては日本人学生2名を雇用し、演技やセッション全体の様子をビデオカメラで録画してもらった。

2. 参加者

X大学の日本人女子文系学部生4名（S11, S12, S13, S14）。年齢は19歳から22歳。セッション後2カ月以内に、アメリカのY大学に交換留学生として、約10カ月間の留学を予定していた。英語力は、全員がY大学への留学に必要な語学要件を満たしていた。S13は都合によりスキル7の学習を欠席したが、他の参加者は全ての学習に参加した。

3. 学習内容

セッションで学習したスキルは全9スキル。初日に初級・中級レベルと

考えられるスキル1・3・4・5・6の5スキルを学び、2日目には上級レベルに該当するスキル7・8・9・10の4スキルを学んだ。本稿では、スキル7「主張・交渉する」、スキル8「依頼された援助を断る」の対話記録について報告する。スキル7は、不良品のペンの交換・返金のために店員と交渉するという場面であり、スキル8は友人から援助を依頼されたが代替案を出すことで断るという場面です。ともにアサーションをテーマとしている。アメリカで要求されるアサーションのレベルは総じて日本より高く、その要領に戸惑う日本人留学生も多いため、大学生活や日常生活で必要性の高いスキルと考えられる。

Ⅲ. 結果（対話とフィードバックの記録）

セッションの流れに沿って、(1) ロールプレイ1回目の演技の対話記録、(2) ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約、(3) ロールプレイ2回目の演技の対話記録、(4) ロールプレイ2回目のフィードバックとまとめの要約の順に、以下に記す。まず演技の対話記録については、セッション当日の発話順に記し、参加者のプライバシーにかかわるとと思われる個人名や地名等の固有名詞を示す箇所には、適宜修正を施した。Jはネイティブ学生、T1は本稿の第一筆者、T2は第二筆者を表す。演技のフィードバックとまとめの要約については、参加者からの演技の感想、他の参加者やネイティブや講師からのフィードバック、ネイティブと講師からのアドバイス、参加者からの質問の4点について、要約した。さらにネイティブと筆者による見本のロールプレイが行われた場合は、その対話記録と質疑応答についても示した。フィードバック等のコメントに続けて、括弧内に発言者を示した。

1. 「スキル7・主張・交渉する」の対話記録

スキル7は、文房具店で2日前に購入したペンのインクが出ず、交換か

返金を求めて店員と交渉するという場面である。S13が欠席したため、ロールプレイは3名で行われた。その対話記録(表1)を見ると、3人とも1回目から、ペンが壊れているという状況を説明しており、その後、返金または交換という要求を伝えることができている。全体を通じて大きな言いよどみなどは見られない。フィードバックの様子(表2)をみると、全員が緊張したと述べているものの、アイコンタクト、ボディランゲージ、ジェスチャーはかなりできている様子がかがえる。ネイティブは参加者に対して、言語面だけではなく、話者の態度をみて相手の印象が変わっていく、という非言語面に関するアドバイスをしている。最後に見本のロールプレイが行われ、スキルの要領が述べられた。

表1 スキル7・ロールプレイ1回目の対話

【S11の演技】

S11: Excuse me? I bought a ball pen two years ago ... ah, two days ago.

But I couldn't write with this pen.

J: Is the pen broken?

S11: Yeah, maybe. So would it be possible pay me back the money or to exchange it for another one?

J: Yes, we can either refund your money or do an exchange. Which would you like?

S11: I want to exchange it for another one.

J: Absolutely. Why don't you go find a pen you want and bring it back here and I'll change it to the new one.

S11: Thank you.

J: You're welcome.

【S12の演技】

S12: Excuse me.

J: Yes?

S12: I bought this pen two days ago. But it doesn't work. So please return my money. Or please exchange new one please.

J: Of course. We can do either, which do you prefer?

S12: I want to change new one.

J : Absolutely. Just go find a new one and we'll do that for you.

S12 : Thank you.

【S14 の演技】

S14 : Excuse me.

J : Yes?

S14 : Two days ago, I bought this pen. But I realize this pen can't work. If it is possible, please exchange new pen.

J : Absolutely.

S14 : Or pay back?

J : Would you like money or a new pen?

S14 : I want to exchange for new pen.

J : Absolutely.

S14 : Thank you.

J : You're welcome.

表2 スキル7・ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約

感想

緊張した (全員)

最近ではビザの書類以外では、英語を話すのはこのセッションくらい (S14)

フィードバック

【S11 の演技】

ジェスチャーがあって分かりやすかった (S12)

英語の表現もよくていいことが簡潔でわかりやすい (S14)

わかりやすい (J)

May I have a refund? をよく使う (J)

【S12 の演技】

簡潔にまとまっていた (S11)

ペンを持ちながら言うのがよかった (S12)

アイコンタクト, ボディーランゲージがとてもよい (J)

目はよく見るようにしている (S12)

アイコンタクトがあると信頼できる印象を持つ (J)

【S14 の演技】

ジェスチャーが入っていた (S11)

先週より自然になっていた (S12)

If it's possible の表現がよい (J)

質問

どれくらい丁寧にいったらいいのか (S12)

Give me～はストレートすぎる, Could I have～が丁寧でよい. 印象は態度で変わってくる. (J)

アドバイス

状況説明→自分がどうしてほしいかを伝える (T1)

見本

J: Excuse me. I bought this pen here two days ago. It doesn't work at all.

Would it be possible to get a refund or exchange it for another one?

T1: Either will be OK. Which would you like?

J: I'd really like to have another pen if I could. So could I exchange it?

T1: Sure. Find any pen that you like. And then bring it to me. I'll be happy to exchange it for you.

J: Thank you very much.

T1: Sure.

丁寧な表現で, かつ状況説明→ペンを換えてほしいと伝えている (T1)

日本だったら壊れているというだけでよかったが, 交換してほしいまでいわないといけない (T2)

"I want to exchange." If you say that, the store will understand what you want. (J)

ペンが壊れていると言うだけだと, 店側は何をしてほしいかわからず, ペンの交換も困難に (J)

あまりに遠慮深くいうとわかってもらえないのかもしれない (T2)

質問

あまりストレートに言うはずうずうしい感じがしないか (T2)

→丁寧な表現で言えば大丈夫 (J)

2回目の演技における対話記録(表3)では, S11が1回目のフィードバックで受けたネイティブの助言を生かして, "May I have a refund?"と発言するようになっている. 続くS12は, 1回目にはなかった店員の「ペンを確認してもよいか」の問いかけに対応できている. さらに1回目には丁寧表現としてpleaseのみを使用していたが, "Could I have..."の丁寧表現も新たに取り入れている. S14は, pay backの代わりにrefundという

単語を取り入れている。また「レシートを見せてください」という新しい問いかけにも、全員が動揺せずに応えられている。フィードバックのまとめ（表4）を見ると、S12は見本の演技で見たやり方を使おうと思ったと語り、ほかの参加者やネイティブはS11とS12の演技が自然になったとコメントしている。S14はフィードバックの際、疑問に感じた点について、自分から進んで質問している。

表3 スキル7・ロールプレイ2回目の対話

【S11の演技】

S11 : Excuse me. I bought this pen two days ago. But it doesn't work. May I have a refund, or exchange it for another one?

J : That should be OK. Do you have a receipt with you?

S11 : OK. Here you are.

J : Oh, yes. That would be fine. Would you like our money or would you like another pen?

S11 : I would like to have a refund.

J : OK. I'll just give you the money here, here you go.

S11 : Thank you very much.

J : You're welcome.

【S12の演技】

S12 : Excuse me.

J : Oh, yes.

S12 : I bought this pen two days ago. But it doesn't work. So could I have a refund or exchange it for another one?

J : Of course. Do you mind if I see the pen for a second?

S12 : Yes.

J : Yeah, it's broken. Do you have your receipt with you?

S12 : Yes, of course.

J : Would you prefer money or another pen?

S12 : I want to exchange.

J : OK. Why don't you go get another pen? And bring it here. I'll switch with it for you.

S12 : Thank you.

J : You're welcome.

S12 : See you.

【S14 の演技】

S14 : Excuse me.

J : Yeah. How may I help you?

S14 : Two days ago, I bought this pen. But this pen doesn't work. So if it is possible, may I have a refund, or exchange it for new one?

J : Do you have your receipt with you?

S14 : Yes, I have. Here.

J : Yes. That should be fine. Which would you prefer?

S14 : I want to exchange it new.

J : OK. Go find any you want. I'll exchange it for you.

S14 : Thank you. Thank you for your time.

表4 スキル7・ロールプレイ2回目のフィードバックとまとめの要約

感想

1回でよいと助言されていたのに Thank you. Thank you for time. と2回いってしまった (S14)

In this situation, it's OK. (J)

とてもよくなっていた (T1)

見本の表現を使おうと思った (S12)

Jさんが (アイコンタクトで) 見てくれたから見ようと思った (S12)

フィードバック

【S11 の演技】

声の大きさが大きくなった (S12)

堂々としていて, 自然になった (S14)

It seems like, you are confident. Good impression. (J)

【S12 の演技】

自然な感じ (S11)

アイコンタクトがずっとできていた (S14)

Very good. At the very end, "See you." It's a little strange. Maybe just "Thank you very much." (J)

(態度に対して) It was very natural. (J)

【S14 の演技】

言いたいことがいえていた (S11)

堂々としていて, アイコンタクトもできていた (S12)

インクとかはいわなくていいのか (S14)
→いってもいいが壊れているといえは十分 (T1)

2. 「スキル 8・依頼された援助を断る」の対話記録

S13 はスキル 8 が始まったところから参加し、ここから 4 名でのセッションとなった。スキル 8 は、依頼への断りをテーマとしている。友人からパーティに日本食を作って持ってくるように依頼されるが、住んでいる寮にキッチンがないため、友人宅のキッチンを借りて作れないかと話してみる、という場面を設定した。表 5 をみると、1 回目の演技では、自分の置かれている状況を説明してから、代替案を示して受け入れてもらう、という大筋の流れは全員が実施している。しかし会話の最終部分では、4 名ともにいつ行くかという時間の確認を自分からしておらず、交渉の現実味は乏しい。時間の確認は課題文には記載されていないためか、相手役のネイティブから時間を尋ねられたのに応じて、いつ行くかが話題になったに過ぎない。フィードバックをみると (表 6)、S11 以外の 3 名は感想としてこの点にふれている。例えばネイティブの援助のおかげで話の展開が可能だった、という振り返りがみられる。ネイティブは、「行きたいけれど (台所がない)」と表現するように、また自信を持つようにとアドバイスし、見本の演技でこの点を実演してみせている。

表 5 スキル 8・ロールプレイ 1 回目の対話

【S14 の演技】

S14 : Hi, J

J : How are you?

S14 : I'm fine.

J : Oh, we are having a party this weekend. Would it be possible for you to bring some Japanese food?

S14 : Japanese food? I want to bring ... I want to cook and bring my. You know, I live in C (留学生の寮). There are no kitchen. So I can't cook by

myself. If it is possible, do you have a kitchen in your house?

J : I do. I do. You could come over at eight o'clock tonight. Would that be OK?

S14 : Yes. And I can cook in your house?

J : Yes, that's fine.

S14 : That's good. Thank you. And I will go eight.

J : Eight o'clock. Yes.

S14 : See you.

J : See you.

【S12 の演技】

S12 : Hi.

J : How are you?

S12 : Pretty good.

J : Did you know we're having a party this weekend?

S12 : Yeah, I'm looking forward to this party.

J : Yeah, it should be fun. Would it be possible for you to bring some Japanese food?

S12 : I'd like to cook Japanese food for you. But there are no kitchen in my dorm. I want, but I can't.

J : I have a kitchen in my house. If it's OK, you could come over and cook there.

S12 : Really?

J : Yes.

S12 : Thank you.

J : Sure. What time is good for you?

S12 : ... After this class, I want to go your house and cook. Is it OK?

J : Yes. That should be fine.

S12 : Thank you.

J : I'll See you after this class.

S12 : See you.

J : Bye.

【S11 の演技】

S11 : Hi.

J : Hi. Oh, yes. Listen, me and my friends, we're having a party this weekend. Could you possibly bring some Japanese food to the party?

S11 : I'd like to. But there is no kitchen I can use in my dormitory. So, if I can use your kitchen, I can cook Japanese food.

J : Uh, I see. When is it good time for you?

S11 : Seven o'clock.

J : Seven o'clock, today?

S11 : Weekend ... Friday. OK?

J : All right. See you Friday seven o'clock.

S11 : See you.

【S13 の演技】

S13 : Hi, J. How are you doing?

J : I'm good. How are you?

S13 : I'm really good.

J : Have you heard about the party that we're having this weekend?

S13 : Oh, thank you. I want to go your party.

J : Could you bring some Japanese food to the party?

S13 : Yes, I'm good at cooking.

J : Good.

S13 : But I have no kitchen in my dorm. Can I use your kitchen?

J : Yeah, that should be fine.

S13 : Really?

J : When is it good time for you?

S13 : Any time is good.

J : Um ... say today, at six o'clock?

S13 : Good.

J : OK. I'll see you at six o'clock.

S13 : OK, see you.

J : Bye.

表6 スキル8・ロールプレイ1回目のフィードバックとまとめの要約

感想

何時に行くとか決めるときに混乱した (S14)

J先生に提案してもらって助かった (S12)

話が進んだので、Jさんのおかげだと思った (S13)

フィードバック

【S14 の演技】

八時になど確認をとっていたところがよかった (S13)

一番目なのによくできていた (S11)

頼む表現がしっかりできていた (S12)

最後の空気が重かったが、僕のせい (J)

J先生のせいではない (S14)

If you have more confidence, conversations will be a little easier. (J)

【S12の演技】

キッチンがないけれど、作りたいという気持ちが表現されていたのがよかった (S13)

笑顔がいい (S11)

I want のところが感情がこもっていた (S14)

I'm looking forward to～などがあり自然な感じ (J)

I'd like to cook, but I don't have a kitchen. It's the best way to say. (J)

【S11の演技】

堂々としている (S14)

声の大きさが適切 (S12)

冷静 (S13)

SEVEN o'clock. That's good. it helps the partner understand. (J)

Also, you said, "I'd like to, but～." Good. (J)

【S13の演技】

雰囲気明るくてよい (S14)

自然、日本語で話しているときと同じみたい (S12)

NHKの英語の番組を見ているみたい (S11)

Very natural. (J)

It's very funny, "I'm good at cooking." Maybe better to say "I love cooking."

But no problem. If it's joke, fine. (J)

あまり考えてなかった、今度はもっと考える (S13)

質問

もし最初に I can't といったらどうか (T2)

→ The feeling is a little bad. (J)

謝るのは必要かどうか (T2)

→ You don't have to say. Just say "I'd like to, but I can't." (J)

見本

T1: Hi, J.

J: Oh hi, how are you doing?

T1: Good. Guess what? We're having a party this weekend. Would you like to come and join the party with us?

J: Yes. If it's OK.

T1 : Wow, sounds good. Could you bring some Japanese food to the party, if possible?

J : Yes, I love cooking. But I have a problem. You see, there is no kitchen in my dormitory. So I can't really cook food you see. So what should I do, do you know?

T1 : Well, if you could come to my house earlier than the party, it would be OK to use the kitchen of our house.

J : Oh, really? Would that be OK?

T1 : Sure. No problem. When is it convenient for you?

J : What time does the party start?

T1 : Oh from seven.

J : So six o'clock.

T1 : Six o'clock would be good.

J : See you at six o'clock.

T1 : OK. See you at six at my house. See you.

2回目のロールプレイ（表7）では，“I want to go and join the party. (S14)”等，全員がパーティを楽しみにしている気持を表現できている。またS13以外の3名では，1回目とは異なり，パーティの開始時刻を自分から尋ねることができている。S12は，冒頭の部分で新たに自分から“How about you?”と聞き返すこともできるようになっている。フィードバック（表8）を見ると，S12以外の3名は，「空回り」「何をいうのか忘れてしまう」など2回目でもまだ不十分であるという主旨の発言をした。しかしネイティブは，皆上手になったと評価している。

表7 スキル8・ロールプレイ2回目の対話

【S14の演技】

S14 : Hi, J.

J : Hi. How are you?

S14 : I'm good.

J : We're having a party this weekend, actually. Would you like to come?

S14 : Yes, of course. I want to go and join the party.

J : Excellent. Would it be possible to bring Japanese food?

S14 : Japanese food? I love cooking and bring my recipe of Japanese food.
But I live in dormitory of university. There is no kitchen. So I can't cook there. So ... but I would like to cook.

J : If it's all right, I have a kitchen in my house. Would you like to come over before the party?

S14 : That sounds good. Is it OK?

J : Yes. It should be fine. So, six o'clock?

S14 : What time is the party start?

J : The party starts at eight. So six o'clock should be a good time.

S14 : Yes. So I will go to your house at six. Thank you.

J : I'll see you then.

S14 : See you.

【S12 の演技】

S12 : Hi.

J : Hi, how are you doing?

S12 : Thank you, pretty good. How about you?

J : Not that bad, actually. Have you heard about the party this weekend?

S12 : Ah, I'm looking forward to this party.

J : Me, too. Everybody is bringing food from their hometown. Could you maybe bring something from Japan?

S12 : I would like to, but there are no kitchen in my dorm. So I want, but I can't. Can I use your kitchen in your room?

J : Yeah. That should be OK. What time do you have free?

S12 : What time does the party start?

J : Eight o'clock.

S12 : Eight o'clock? Is it OK ... seven o'clock?

J : That should be fine.

S12 : Thank you.

J : So, my place seven o'clock. See you then.

S12 : Yeah, see you.

【S11 の演技】

S11 : Hi.

J : Oh, hello. Have you heard about the party we're having this weekend?

S11 : Oh, I'd like to go.

J : Everybody is bringing food. So could you maybe make something from Japan?

S11 : Yes, of course. But there isn't kitchen in my dormitory. So I can't

cook. But I have Japanese food recipe. If I can use your kitchen, I can make Japanese food.

J : I think I should have free kitchen. What time is good?

S11 : What time does the party ... start?

J : The party starts eight o'clock.

S11 : Is seven o'clock, OK?

J : Yes. Seven is fine. See you there, at seven o'clock.

S11 : OK. I'll go at seven o'clock.

【S13 の演技】

S13 : Hi, J. How are you doing?

J : I'm really well. How about you?

S13 : I'm fine.

J : Good. Um, have you heard about the party we have?

S13 : Sure, I'd like to go.

J : Good. Everybody's bringing food from their hometown. Would it be possible for you to bring something from Japan?

S13 : I wish I could. I love cooking, but I have no kitchen in my dorm.

J : Oh, I see. If it's all right, I have a kitchen in my house.

S13 : Oh, really? Can I use it?

J : Yeah, you can. Maybe at seven o'clock, one hour before the party.

S13 : Good. I can make it for one hour.

J : Good. So, see you at seven o'clock.

S13 : See you.

表 8 スキル 8・ロールプレイ 2 回目のフィードバックとまとめの要約

感想

皆疲れが出ている様子 (T2)

二回目のほうがいい (S12)

私は一回目のほうが好き (S13)

(共感して) 二回目は何をいうのか忘れてしまう (S11)

がんばろうとして空回り (S12)

二回目はどうか、混乱は残ったか? (T2)

→一回目よりは大丈夫 (S14)

意識して用意するのが難しいかもしれない (T2)

フレンドリーに話すことが大事 (T2)

フィードバック

【S14の演技】

内容が濃くなった (S13)

状況説明がうまい (S11, S12)

Natural. You said everything. Improved. (J)

NO というだけでなく理由もいう, ポジティブに伝えることが大事 (T2)

【S12の演技】

自然, 控えめに提案する感じがかわいい (S13)

演技もうまくなった (S11)

できないというときの言い方が良いなと思った (S14)

I want のときの手の動きがよい, 相手が理解しやすい. When I talk, I use a lot of body languages. Many Americans, too. (J)

Emotions you have, ジェスチャーで効果的に表現されている (J)

【S11の演技】

ボディランゲージ, アイコンタクトがよい (S14, J)

ボディランゲージが大きい (S12)

頑張って伝えようとしていた (S13)

【S13の演技】

仮定法が使えていてよかった (S14)

自然 (S12)

安心して見られた (S11)

Very natural. (J)

前で両指を交差させていた. It means nervous. Be careful. 他にも腕を組んだり, 体の前で手を重ねている場合も緊張していると思われる (J)

態度の方が変えるのが難しい, 気持ちを素直に態度に示せるようになったらよい (T2)

皆上手になった (J)

質問

日本はあまり人を家によばないように感じるが, 頻繁に家にいってもいいのか. (T2)

→ It happens very often. After school, to study, in friends' house. We say, "Yeah, come over after school." 一緒にいるという感じで, 日本の「おじやまする」というのとは so different (J)

IV. 考察

本稿の目的は、アメリカへの短期交換留学予定者を対象としたソーシャル・スキル学習セッションの、対話記録の詳細を報告することであった。2日間にわたるセッションのうち第2日目の記録を取り上げたが、その中で、参加者はどのようにセッションでの演技やフィードバックに取り組んでいたのか、またネイティブは参加者の演技をどのように捉え、どのような助言を行ったのか、以下に読み取ったことを述べていきたい。

今回の参加者4名は、留学を間近に控えていたことから、大変意欲もモチベーションも高い状況でセッションに臨んでいたものと考えられる。そしてセッションはすでに2日目に入っており、学習形態に対するある程度の慣れも出てきていたと思われる。対話記録とフィードバックを見ると、1回目の演技でも言いよどんだりつまったりせずに、要求される行動をおよそ満たしている。加えて2回目の演技では、1回目の演技後に得たフィードバックや助言を積極的に取り入れて試していることが読み取れる。例えば、単語や丁寧表現を取り入れた表出だけでなく、自分から相手に対して、場面に応じた質問を繰り返すこともできるようになっていた。さらに、1回目の演技にはなかったネイティブからの新しい問いかけにも、戸惑うことなく、臨機応変に対応できていた。これらは参加者のセッション内におけるスキルパフォーマンスの向上を示すものであり、彼女たちの意欲や創意工夫の表れとして読める。

最後に今後の課題について述べておく。まず、参加者の渡航後の状況、すなわち留学先であるアメリカでのソーシャル・スキルの使用状況を探っていくことが挙げられる。さらにスキル使用とあわせて、ソーシャル・ネットワークの構築・展開状況や、ソーシャル・サポートの獲得状況を調べていくことが、本セッションの長期的効果を判断する手がかりを提供するだろう。例えば、今回とは別の参加者による第1期アメリカン・ソーシャル・スキル学習セッション（高濱・田中，2009a，2009b；田中・高濱，

2008, 2010, 2011) の追跡調査の結果 (高濱・田中, 2009c) を見ると, セッションで学習した日本人学生たちは, 実際に留学先であるアメリカで学習したスキルやスキル使用の心構えを活用していた. 今回の参加者についても, 渡航後の様子を調べて, セッションの実践上の効果を探っていきたい. そして留学前の異文化間教育の整備を進めて, 日本からの留学生の円滑な派遣に貢献していきたい.

引用文献

- グローバル人材育成推進会議 (2011) 「グローバル人材育成推進会議 中間まとめ (案)」 <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/global/dai2/siryoul.pdf>
(2011年8月22日閲覧)
- Takahama, A., Nishimura, Y. & Tanaka, T. (2008). The influence of social skills on getting social support for adolescents during study abroad: A case study of Japanese short-term exchange students. *Journal of International Student Advisors and Educators*. Volume 10, pp. 69-84.
- 高濱愛・田中共子 (2009a) 「アメリカ留学準備のためのソーシャル・スキル学習セッションの試み——対人関係の開始に焦点を当てて——」『留学生教育』第14号, pp. 31-37.
- 高濱愛・田中共子 (2009b) 「アメリカ留学準備のためのソーシャル・スキル学習の試み——アサーションに焦点を当てて——」『異文化間教育』30, pp. 104-110.
- 高濱愛・田中共子 (2009c) 「在米日本人留学生による滞米中のソーシャルスキル使用——留学前ソーシャルスキル学習の受講者と非受講者の場合——」『留学生交流・指導研究』Volume 11, pp. 107-117.
- 高濱愛・田中共子 (2010) 「米国留学予定の日本人学生を対象としたソーシャルスキル学習」『一橋大学国際教育センター紀要』創刊号, pp. 67-76.
- 高濱愛・田中共子 (2011a) 「派遣留学生の教育的トータルサポートシステム構築へ向けて: 日本人留学生を対象とした留学前および帰国後教育プログラムの試み」ウェブマガジン『留学交流』2011年7月号 http://www.jasso.go.jp/about/documents/aitakahama_tomokotanaka.pdf
- 高濱愛・田中共子 (2011b) 「米国留学準備を目的とした短期集中型アメリカン・ソーシャルスキル学習セッションの記録 (1) ——自己紹介と対人関係の開始

- に焦点を当てて——』『一橋大学国際教育センター紀要』第2号, pp.123-132.
- 田中共子 (1994) 『アメリカ留学ソーシャル・スキル：通じる前向き会話術』アルク
- 田中共子・高濱愛 (2008) 「米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習：大学での学習場面への対応を課題とした中級セッションの記録」『岡山大学文学部紀要』第49号, pp.31-48.
- 田中共子・高濱愛 (2010) 「米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習 (2)：対人関係開始場面を課題とした初級セッションの記録」『岡山大学文学部紀要』第54号, pp.55-68.
- 田中共子・高濱愛 (2011) 「米国留学準備のためのアメリカン・ソーシャル・スキル学習：アサーションを課題とした上級セッションの記録」『文化共生学研究』第10号, pp.103-118.

付記

本研究は、科学研究費補助金・萌芽研究 No.19653099 (代表・高濱愛) の助成を受けた。